

令和8年度第2回府中市市民協働推進会議録（要旨）

- 開催日時 令和8年6月18日（木）午後2時から4時
- 開催場所 府中駅北第二庁舎3階 小会議室
- 出席委員 青山会長、関根副会長、芝委員、柴原委員、高橋委員、田中委員、
名島委員、野原委員、花岡委員
- 欠席委員 竹内委員
- 事務局 大井市民協働推進部長、福嶋協働共創推進課長、加瀬主査、大藤主査、
徳吉事務職員
- 傍聴者 なし
- 議事内容
 - 1 報告事項
 - (1) 市民協働・共創促進事業の第三者評価シートの改定について
 - (2) 令和7年度市民協働・共創促進事業の評価結果について
 - (3) 令和7年度「ファンファーレ」の評価結果について
 - (4) 令和8年度市民協働・共創促進事業審査結果について
 - 2 審議事項
 - (1) 第1次府中市市民協働推進計画について
 - 3 その他

■会議録（要旨）

○会長 第2回府中市市民協働推進会議を開会する。事務局に委員の出席状況などについて報告をお願いする。

○事務局 竹内委員欠席。定数11名のうち過半数の委員が出席のため、本会議は有効に成立していることを報告する。なお、傍聴希望者はいなかった。

続いて、配布資料を確認する。（配布資料の確認）

■議事録の確認

○会長 前回の会議録は事前に確認いただき、修正したものを会議資料とあわせて送付した。また、会議録と議事録の名称が類似しているため、議事録の名称を会議進捗メモと変更した。前回までの検討事項であった、「ファンファーレ」「市民協働・促進事業」の評価結果について、先日の市民協働・共創促進事業報告会・ファンファーレ報告会にて、アドバイスの観点も含めて部会員の皆さまから質疑応答していただき、ステータスを完了とし、会議録および資料ともに資料のとおり確定する。

■報告事項1 市民協働・共創促進事業の第三者評価シートの改定について

○会長 報告事項1について、事務局に説明をお願いする。

事務局より資料１の内容を説明。

○会長 資料１のとおり、事業評価時の第三者評価シートについて、評価結論の文言の表現について委員から補足説明や意見があるか。

(特になし)

○会長 それでは、部会よりこのように報告があったが、委員会としてこの通り承認ということが良いか。

(異議なし)

○会長 報告のとおり了承とする。

■報告事項２ 令和７年度「市民協働・共創促進事業」の評価結果について

○会長 報告事項２について、事務局に説明をお願いする。

事務局より資料２－１及び資料２－２の内容を説明。

○会長 市民協働・共創促進事業の報告について、委員から補足説明や意見があるか。

○委員 いずれも前年の冬頃からの短い準備期間の中で一生懸命やっていたと思う。評価をＢとした事業は単年においては良かったが、継続性に課題があった。また、令和７年度は予算上限が２００万円と高すぎたこともあり、今年度は１００万になっている。

○委員 特になし。

○委員 特になし。

○会長 それでは、答申書の内容はこれで確定する。

■報告事項３ 令和７年度「ファンファーレ」の評価結果について

○会長 報告事項３について、事務局に説明をお願いする。

事務局より資料３－１及び資料３－２の内容を説明。

○会長 ファンファーレの報告について、委員から補足説明や意見があるか。

○委員 報告会は温かい雰囲気でのアドバイスができた。どちらも一部達成という評価にはなかったが、ラグビーの方は府中以外での試合だったので、なるべく市民に関わらせるイベントにしてほしいといった話をした。フードバンクについては価値ある活動なので、ネットワークや活動の幅を広げてほしい。フードバンクは従来からの事業に寄付金を使っており、今回の事業が既存事業と何が違うのか、評価がしにくかった。今後は新しくやる取り組みについて提案してもらえるといい。

○委員 特にありません。

○委員 事業の対象となる方がスポーツや生活困窮者など限定的となってしまうため、対象ではない一般の方の共感を集めることが難しいという課題があったが、事業を実施することで、一般の方が事業の存在を知ったり、市民協働推進会議の委員としてこの事業を周知するなど、事業と事業を知らない方の繋ぎになれたらと感じた。

○会長 ここまでについて、ご意見、ご質問はあるか。

○委員 補助金の支給額は達成内容で変わるか。

○事務局 期間内で得た寄附から手数料を引いたものを補助するため、達成度合いによって補助額が変わることはない。

○会長 補助金が交付されるタイミングはいつか。

○事務局 クラウドファンディングが集まった時点で補助できるが、今回については、実施後に請求を受け、補助金を交付している。

○会長 承知した。他に意見や質問はあるか。

○委員 具体的に事業を当てはめてみて、課題が残るという評価で事業が終わっていいのかと感じた。目標以上の成果があったとしても、継続するとしたら継続のために何かしら課題があるはずである。答申としては、事業の実績の評価で良いと思うが、制度として、継続性を求めるのかも含め、市民協働・共創促進事業やファンファーレ事業をどのようにすべきか検討することが必要だと考える。

○会長 事業自体のレビューが必要ではないかという意見について、部会長はいかがか。

○委員 レビューは誰がする想定か。

○委員 そこから検討する必要がある。市職員がするのか、市民協働推進会議でするのか、今まで検討していなかったため、この部分の検討から始めたら良いかと思う。

○委員 審査する側として委員がやるのもいいと思うが、そのためには実施者の感想も聞きたい。

○委員 感想は、報告会で聞いている。その結果出したAやBの評価についてどう思うか聞きたい。

○会長 Bを付けられた評価について、1件についてはやり方を検討する形、もう1件については内容を変えてやっていく形となっており、個々の事業についてはきちんとPDCAのサイクルが回っていると思う。

○委員 PDCAのサイクルを回すことを実施者だけに任せる形でいいのかと思う。

○委員 この事業単体の話と、その後の話があり、その後の支援はこの事業の枠に収まりきらない。市民協働・共創促進事業やファンファーレは共創を始めるためのファーストフェーズであって、その後にセカンドフェーズがあり、どうつないでいくかが課題ではあると思う。今回の事業については、きちんとアドバイスできる審査会にすることを意識し、実行できたのでよかったと思う。ファンファーレについても、これだけ寄付が集まっているため、共感を集められ、手ごたえを得られたと思うので、成果は得られたと思う。

○会長 ファンファーレも両方の事業について今後のアドバイスがきちんとできた。そのうえで、市民協働・共創促進事業やファンファーレについて、事業内容を再検討し、どのように進めていくべきか検討すべきといった意見もあったので、今後事務局とも考えていきたい。

○事務局 市民協働・共創促進事業もファンファーレも、やりたかった事業を始めるきっかけづくりを提供する意味があると考えている。

事業を実施してみて、部会員の皆さんからの意見や事業に参加された市民の方からの意見を持ち帰り、各課で事業の継続について見直し、再度ファンファーレや市民協働・共創促進事業に申請することや各課で予算化することもある。

協働は、やってみたいけれどなかなか踏み出せないことが大きな壁なので、それを後押しできる事業だと考える。

○会長 種をまいて芽が出て、水をやって事業という芽が育つところまで来ているのだが、その後どうなるかが、市民協働推進会議の視界からははずれている点が残念に感じられていると思う。

○事務局 次回の会議で実施した協働事業一覧を配付する。市民協働・共創促進事業やファンファーレがきっかけになった事業はそういった報告資料にも載せていくので、あの時実施した事業がこうなった、ということを追えるように資料を工夫できたらと思う。

○会長 それでは、答申書の内容はこれで確定とする。

■報告事項4 令和8年度市民協働・共創促進事業審査結果について

○会長 報告事項4について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料4の内容を説明。

○会長 市民協働・共創促進事業の報告について、委員から補足説明やご意見などありましたらお願いいたします。

○委員 審査会は和やかに進み、担当課も事業者も前向きだったので、予算が適切なのか、よりよくするにはといった視点で付帯意見を付けた。

市民主体の環境保全活動センター検討会議は、謝礼が多かったため削減することや、若者の参加目標を立てることを付帯条件とした。

多摩産材のまな板づくり（寄贈）は、無料ではなくて参加者の負担を検討することを付帯条件とした。

ゲームで進める府中市の男女共同参画推進事業は、単年度ではなく先を見据えるよう意見した。

健康寿命を延ばす府中の食育プロジェクトは、講演会に向けた食育推進や、市内での連携について意見した。

評価として、1、2の得点は6割ほどになったが、付帯条件をクリアすることで頑張っている。3、4の得点は約8割となり、いずれの事業も部会員全員が可と審査をした。

○委員 我々市民の声が届くのはいいことである。提案を聞いて遠慮なく意見できた。

○委員 短い時間内で審査をするのは難しいが、どの事業も行政のみでは実行できないものである。

○会長 ここまでについて、ご意見、ご質問はあるか。

○委員 付帯意見と付帯条件は違うのか。

○事務局 付帯条件は、採択のために実現できることが前提の内容として付されたもの、付帯意見は金額には影響しない。

○会長 令和7年度も同様だったのか。

○事務局 同じである。令和7年度の事業には付帯条件が付いていない。

○会長 実施後に条件の達成状況によっては減額の可能性もあるか。

○事務局 付帯条件がクリアされる見込みを確認したうえで採択しているため、付帯条件が費用の支払いに影響を与えるものではない。

○委員 付帯条件が付いている場合、ひとまず事業を実施して、事業終了後に評価をするのではなく、付帯条件を踏まえて改善したものを再提案してもらったうえで事業を実施してもらった方がいいのではないか。付帯意見についても、1年後の報告会で結果を聞くのではなく、より成功してもらうために、中間発表のようなものを設けた方が良いと思う。

○事務局 付帯条件と付帯意見で重みを変えていることについて、条件が付いた事業については採択の決定前に、付帯条件の内容を伝えてヒアリングし、クリアできそうか文書で確認している。そのうえで採択しているので、条件はクリアされるのが前提である。また、都度進捗は確認し、達成できていない様子であれば指導をしていく。

○会長 すでに伴走支援がなされていると理解した。他に意見はあるか。

○委員 総事業費と委託料が違う事業の理由は何か。

○事務局 参加料を100円×120人分取ることを付帯条件にしたためである。

○会長 参加費をとることで、社会貢献に参加している実感に繋がると思う。

■審議事項1 第1次府中市市民協働推進計画について

○会長 審議事項1について、事務局に説明をお願いします。

事務局より資料5―1、5―2、5―3の内容を説明。

○会長 本日審議いただきたいのは、1点目に共創の定義と、図での示し方である。ポイントは、共創は市民協働の一形態であることと、事業の実施の過程でも起こることをどう示すかである。2点目は、計画全体の構成について意見をいただきたい。
まずは共創の定義文について意見はあるか。

○委員 共創の「創」には、初めにという意味があるので、「計画の初期段階」といった表現

が入るといいと思う。

○委員 事務局の説明だと、新たなことを始める場合はどの工程にも共創があるということだと思うので、計画段階の最初の方でも、後の方でも共創が起こっているのであれば、このままの表現でもいいと思う。

○委員 「計画の初期段階」と入れると、「新しい」と「初期」が重複して強調されてしまう。初期段階のことが、この後話し合う図に反映できるのかもわからない。

○委員 現行案の「形にしていく(創り出す)ことを言います」に比べ、修正案が「新たな価値を創り出したりすること」となっており、一緒につくるという意味合いに比べて一緒に実施していくという意味合いが弱く感じる。

○委員 「計画段階で一緒に」ではなく、「一緒に計画段階」とすることで、そこまで「一緒に」という言葉がかかってくるのではないか。

○会長 一緒にとするのは、「市と市民」がという意味合いか。

○事務局 市民協働の一種である共創も、「市と市民」によるものだけでなく、「市民同士」のものも含むことから、「市と市民」という表現だと限定的になってしまう。本会議で作りに上げた条例でも「市民協働」を「市民等と市」もしくは「市民等同士」と定義しており、条例の内容も計画に掲載されてくるので、それによってもカバーできると思う。

○委員 文字数も増えてしまうので、「複数の主体」はどうか。

○会長 「形にしていく」についてはいかがか。

○委員 入れる余地があれば入れられたら良いと思う。

○会長 新たな価値を創り出すことは、計画段階でも事業実施段階でも重要という理解で良いか。

○事務局 両方重要になる。

○会長 そうすると、「新しい仕組み・サービス・解決策を考えたり、事業の実施方法を変更したりすることで、新たな価値を創り出すことを言います。」が適当ではないか。

○事務局 そのようにしていただけたらと思う。

○会長 この部分をそのように変更した場合、「新しい仕組み・サービス・解決策を形にする」を入れ込むと二重になってしまう。形という文言を入れ込まない方向で問題ないか。

○委員 問題ない。

○事務局 「新たな価値を作り出す」という表現が、どんなことを示しているのか、分かりにくいなどあるか。

○委員 「共創」という言葉なので「～創る」で終わる説明だとよいと思う。「共創」は今後もっと広がっていき、今は思いつかないような発想が出てくる可能性もあるので、価値が何を指すかについては、むしろ何を示しているのか固定しない方が広がりが出てよいと思う。

○事務局 今後この計画を市民に説明していくときに、どんな価値が求められるのかが見えない中での共創のため、現状は何が価値は固定しないという説明で問題ないと思う。

○会長 意見を踏まえて修正すると、「市民協働」の一形態であり、複数の主体が、計画段階で一緒に新しい仕組み・サービス・解決策を考えたり、事業の実施方法を変更したりすることで、新たな価値を創り出すことをいいます。」でよいか。

○委員 常に一緒に考えるので、「計画段階で」はいらないのではないか。

○委員 計画段階があると、実施段階などがあるのかと考えてしまうので、不要だと思う。

○会長 改めて、「市民協働」の一形態であり、複数の主体と一緒に新しい仕組み・サービス・解決策を考えたり、事業の実施方法を変更したりすることで、新たな価値を創り出すことをいいます。」でよろしいか。

(異議なし)

○会長 よければ、続いてイメージ図に関する意見交換に移る。図1は共創、市民協働、社会貢献の関係性がわかる図であり、図2は市民協働、共創の全体の動きが分かる図となっている。この2つを用意することで進めるが、まずは図1について意見を伺いたい。

○委員 案2の方は、新規性など直接的な説明があるのでわかりやすい。

○委員 案1の方が見た目が柔らかくてよいと思う。

○委員 案2は解釈が必要になるし「低」という表現はネガティブに感じる。案2であれば、説明の文字の表現及び文字サイズを再考すべき。案1の方がパッと見たときにわかりやすい。また、“共創ではない市民協働”と、“共創”の理想の比率を事務局はどう考えているか。

○事務局 数値として理想の比率があるわけではないが、どんな活動も市民協働であってほしい、という理想がまずある。また、その中で新しいものも生まれ続けてほしいと考えている。

○委員 案2だと、“共創ではない市民協働”と、“共創”の割合が半々に見える。案1だと“共創”の方が大きく見える。そうすると案1の共創の面積は大きすぎるので、小さくすれば案1の方がわかりやすいと思う。

○会長 案1の支持の方が多そうだが、いかがか。他に意見が無ければ案1を採用し、青い丸を小さくするのでいいか。

(異議なし)

○会長 続いて、図2に移る。市民協働のプロセスの中で共創がどのように関わるかを表現している。案1、2は原稿案を微修正したものである。案3は共創が様々な段階にあることを、案4は3つのパターンで共創を可視化した図である。これ以外にもデザインの方法はあると思うので、意見を聞きたい。3分程度時間をとるので、隣の方と意見交換をしてほしい。

(意見交換ののち、意見を発表)

○委員 案1か3がいいと思う。特に案3が良いと思い、8つではなく4つで丸を作るのがいいと思う。また、「市民協働」「共創」という概念はすでに説明済なのでこの図には要らないと思う。

○委員 図1の案1と図2の案3が並ぶと両方とも円になるため、デザイン的に良いのかと思った。ただ、4つで循環させた方が良いと思う。ここで伝えたいのが、循環することなのか、共創が点在することなのかどっちに重きを置くのかと思った。

○委員 4つともピンとこないという意見もあったが、まずこの円が何を示したいかが分からない。案1は、PDCAがなぜ2回出てくるのか分からない。案2は、協働と共創の関係性を表せていない。案3は、共創の棒がわかりにくい。案4は、いくつかのパターンを示しているのであればわかるが、説明が多い。共創をパターンステップとして表していくのであれば、案4がベースになると思う。結局この図で何を表したいのかがわかりにくかった。

○委員 単純明快なものがいいので、案２がいいと思う。協働と共創の位置づけもはっきりしているし、PDCAのサイクルもわかりやすい。また、現行のものでも問題ない。

○委員 案２がわかりやすいと思う。共創の説明が二つあるが、新しい価値を一緒に作るだけでいいと思う。また案４の図の下の連携が分かりやすかったので、それを案２の下に持ってくるのもよいと思う。

○委員 計画初期段階だけでなく、改善フェーズにも共創があるということを表現するという意図だと考えると、現行案に「共創改善による新たな取り組み」を書き加えるので良いと思う。市民協働は記載せず、共創の順序が様々なところにあることが分かれると良いと思う。

○会長 様々な意見があるが、基本的にはシンプルなもの、その中でサイクルを表すのか、パターンを示す図にするのかで分かれると思うが、意見はあるか。

○事務局 そもそも図２で何を示したいかということについてだが、共創の考え方を市としてはじめて表に出すので、今まで説明してきた市民協働との関係性を明らかにしたいと思っている。よって、どの図にも市民協働と比較ができるようになっている。

しかし、市民協働と共創の関係性は、文字で説明するのと図１があることを考えると、ここでの説明はいらないという意見も理解できる。

また、サイクルが見える形とパターンが見える形のどちらが良いかについては、“市民協働と共創の対比”ではなく、“共創が何なのか”だけを見せるのであれば、現行の図もよいと思うので、現行の図をどうするとよくなるか意見をもらえるのもありがたい。

○会長 ありがとうございます。事務局としては、市民協働と共創の関係が分かる図にしたいが、パターンを示す形にこだわる形ではないとのことだ。

○委員 図の意図については了解した。図示する時は、図１があるので“共創ではない市民協働”を説明しようとせず、共創だけを説明すればいいという前提で、考えるとよいと思う。

○会長 現行案に戻るのでもいいか。
(異議なし)

○会長 事務局は改めて、図２の図案を提示してください。
では、審議事項の２点目に移ります。資料５－３の目次をご覧ください。まず、事務局から各章の概要の説明をお願いします。

事務局より、目次に沿って記載内容を説明。

○会長 第5章が計画の中心になると思う。構成全体に関して意見はあるか。

○委員 「おわりに」という章を追加して、この計画によって府中市がこうなっていく、ということを示せるといいと思う。

○会長 「おわりに」は誰が文章を書くイメージか。

○事務局 一般的な市の計画だと冒頭に市長の挨拶がある。「おわりに」の部分を作成するのであれば、委員の皆さんから意見をいただいて作成することや、会長の挨拶という形にすることが可能だと思う。

○委員 「はじめに」がないと「おわりに」を作るのが難しいと思う。また、この計画で府中市がこうなっていくというのは、「はじめに」に書かれると想定している。また、この計画が第1次であることを思うと、最終形に関する記述を「おわりに」に書くのは違うと思う。別に計画を作成したメンバーの言葉はあってもいいと思う。

○事務局 委員の思いについては、市長に答申する際のかがみに記載していただくのはいかがか。

○会長 答申のかがみへの記載が現実的である。他に意見はあるか。

(特になし)

○事務局 計画に関して追加で意見があれば、次回の市民協働推進会議またはそれ以前でもいいので連絡をしてほしい。

■ 3 その他

○会長 本日予定された審議事項についてはすべて終了となるが、全体を通してご質問等はあるか。

○委員 令和8年度のファンファーレの審査も先日実施したが、本日の議題にはなかった。

○事務局 審査対象事業について、審査いただいた部会員の皆様からの意見を踏まえ、提案者に実施内容について再度確認を行っている段階であるため、次回の会議で報告する。

○会長 事務的な整理が本日までには完了しなかったということなので、次回報告してもらう。

○会長 最後に事務局から連絡事項をお願いします。

(次回の開催について確認。)

○会長 本日は以上で散会する。